

新課程に向けて描く

## 「学校教育デザイン」

# 改革の歯車を回し続けるために、 教師一人ひとりの当事者意識を育む

埼玉県立鴻巣高校

アウトライン

目指す学校・生徒像を定め、校内で共有



生徒の進学先が求める  
資質・能力をつぶさに分析

2018年度に創立100周年を迎えた埼玉県立鴻巣高校では、永井一博校長の下、育成を目指す資質・能力の設定と教科のグランドデザイン策定、そして、指導と評価をつなげる教育活動全体の改革が進行中だ。17年度に同校に赴任して以来、取り組みを牽引する出井孝一教頭は、新たに始まる100年を念頭に、育てたい生徒像と資質・能力からカリキュラム・ポリシーの検討をスタートさせたと振り返る。

「カリキュラム・ポリシーは、自校の教育目標を達成するための

教育課程の編成及び実施に関する方針を示すものですが、生徒の進路実現を支援するためには、それが独り善がりのものであってはなりません。普通科と商業科を設置する本校は、生徒の希望進路も多様です。これまでの本校の生徒の進学先のアドミツション・ポリシーをすべて確認し、それを参考に、育成を目指す資質・能力を定め、教育課程を編成しました」

18年度末には、各教科で育成を目指す資質・能力とその達成のための具体的な授業方法を明文化し、それらを基に各教科の3学年分のグランドデザインを制定した(図1)。新教育課程の編成を主導する荒木海先生は、自身が担当す

る授業において資質・能力の育成が十分に行われているかを改めて確認することができ、さらに他教科の取り組みを可視化する機会にもなったと、各教科のグランドデザイン策定の意義を説明する。

「私の担当教科は国語ですが、例えば、秋には英語科が留学希望者を中心に検定の学習に力を入れていることを知り、同時期を留学に必要な志望理由書を書く意識づけの機会と捉えるようになりました。新学習指導要領への対応を図る上では、教育活動の精選が必要になると考えています。教科の枠を超えて自教科の指導を考える視点を得られたことには手応えを感じています」

SCHOOL PROFILE

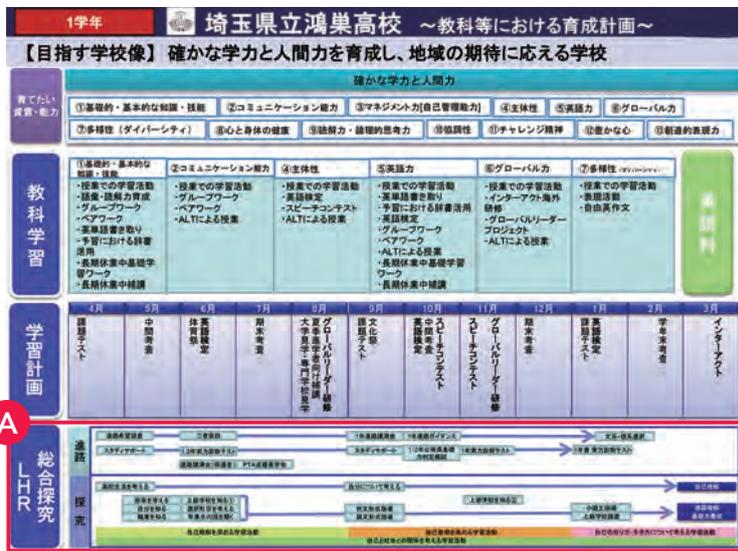
**設立** 1918 (大正7) 年  
**形態** 全日制/  
 普通科・商業科/共学  
**生徒数** 1学年約280人



**2020年度進路実績 (現役のみ)**

4年制大は、お茶の水女子大、国土館大、駒澤大、大東文化大、東京電機大、東洋大などに延べ110人が合格。短大・専門学校進学117人。就職は、武蔵野銀行、吉見町役場、埼玉県央広域消防、上尾市消防などに40人。

図1 教科のグランドデザイン (英語科・1学年)



育成を目指す資質・能力を念頭に、「なぜ学ぶのか」「どのように学ぶのか」「何ができるようになるのか」の視点で、各教科においてグランドデザインを検討・作成した。「総合的な探究の時間」などにおける地域と連携した教育活動を、教科学習の中にも取り入れながら、学んだ知識が生きて働く実感を味わわせる指導の実現にも留意したという。  
 ※学校資料をそのまま掲載。

各教科のグランドデザインには、進路行事とともに、「総合的な探究の時間」での具体的な活動とそのねらいが記載されている(図1・枠A)。それは、各教科における資質・能力の育成と、「総

合的な探究の時間」での資質・能力の育成を連携させるためだ。「総合的な探究の時間」の運営委員会委員長の金澤みなみ先生は、「各教科の授業で身につける資質・能力は、『総合的な探究の時間』に生かすことができ、さらに進路実現へとつながっていくという意識を、生徒に定着させたい」と語る。

「私の担当の地理歴史の授業では、データを読み取ったり、グラフを作成したりするを通じて、読解力や論理的思考力の育成をしています。それらは『総合的な探究の時間』でも度々活用する資質・能力であり、大学入試の小論文や面接などでも求められます。教科のグランドデザインを基に、教科学習、『総合的な探究の時間』、進路学習がなっていることを理解することで、生徒はそれぞれの活動に意義を感じながら主体的に取り組むことができるようになります。その結果、生徒たちの進路意識は、進路学習だけでなく、高校の諸活動の中で早期に醸成されていくと考えています」

同校では、育成を目指す13の資質・能力を、5段階のルーブリックで示し、生徒と教師が共有している。進路指導主事の平田光子先生は、育成を目指す資質・能力を念頭に置き、21年度入試から新しい様式となった調査書に教師が対応するための準備を進めた。生徒が自身の学習状況や生徒会活動

図2 育成を目指す資質・能力の自己評価フォーマット

	構造的に取り組んだ 教科・科目に関する状況	構造的に取り組んだ 学校内外における活動状況
記入	1に英語の学習について記入した。また、英語の授業から自己評価するレベルを記載する。 2「基盤的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。	1に学校行事について記入した。また、英語の授業から自己評価するレベルを記載する。 2「基盤的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。
13	1「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。 2「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。	1「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。 2「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。
2	1「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。 2「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。	1「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。 2「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。
3	1「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。 2「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。	1「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。 2「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。
4	1「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。 2「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。	1「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。 2「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。
5	1「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。 2「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。	1「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。 2「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。
6	1「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。 2「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。	1「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。 2「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。
7	1「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。 2「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。	1「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。 2「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。
8	1「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。 2「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。	1「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。 2「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。
9	1「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。 2「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。	1「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。 2「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。
10	1「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。 2「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。	1「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。 2「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。
11	1「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。 2「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。	1「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。 2「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。
12	1「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。 2「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。	1「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。 2「基礎的知識を基盤的に定着し、振り返りながら自己評価する」を記入する。

教科学習、特別活動、部活動等の6項目において、育成を目指す13の資質・能力のうちのどれが、どの程度身についたのかを、生徒が自己評価する。担任との面談や調査書の作成に活用する。  
※学校資料を抜粋して掲載。

学校行事といった特別活動を振り返るための自己評価フォーマットを作成(図2)。20年度から全学年で運用している。

「新様式の調査書における『指導上参考となる諸事項』の6項目について、育成を目指す資質・能力のルーブリックで示された各段階の状態と照らし合わせて、自分

は、自分の志望校のアドミツション・ポリシーなどを踏まえて、今

後どういった資質・能力を高めるべきか、入試では何をアピールすればよいのかを考え、高校生活を充実させていきます。出願時には、私の元に生徒の自己評価とともに

担任が記入した調査書が集まるのですが、その記載内容を見るだけで、私が直接知らない生徒でも、どういった高校生活を送り、どのような資質・能力を身につけてきたのかイメージできるようになっていきます。『この調査書ならば、大学にも生徒のよさが伝わるはずだ』と手応えを感じました」

## ブレイクスルー

### 教師の改革推進力を高める

#### 現場のニーズを踏まえて柔軟に研修を実施

育成を目指す資質・能力の設定やカリキュラム・ポリシー及び各教科のグランドデザインの策定の際に、同校が重視したのが教員研修だ。

「グランドデザインを踏まえた上で実際に授業を行うのは、教師一人ひとりです。すべての教師が学校改革の方向性を理解し、改革の当事者となるように、現場のニーズを踏まえた教員研修を実施しました」(出井教頭)

新学習指導要領の内容周知や観点別の評価規準などの研修を担当してきた進路指導部の森廣祐介先生は、「先生方の理解度に鑑みて、研修内容を柔軟に組み立てた」と説明する。

「20年度は、各教科で、育成を目指す資質・能力の到達状況を評価するためのルーブリックの作成を進めてきました。しかし、先生方から、到達度を明確に表現するのが難しいという声が上がったため、ルーブリックの作成に関する研修を新たに実施しました。すると、放課後の職員室において、先生方が他校のルーブリックを参考に、本校の生徒に合った評価規準について議論する様子がよく見られるようになりました」

教科・科目のルーブリックのほかに、自己評価フォーマットを活用しながら、生徒から自分ができるようになったことを言葉として引き出すための面談方法や、教師が調査書を作成する際に、生徒の成長を的確に表現する記述方法などのテーマで、研修を行った。





改革を牽引する教師には  
成功や失敗の経験が必要

出井教頭は、教師一人ひとりが様々な場面で成功体験や失敗経験を積みながら、学校改革推進の力を高めることが重要だと説明する。創立100周年記念行事では、全教師を何らかのプロジェクトユニットに配置し、自らの責任で判断・実行することを経験させた。

「総合的な探究の時間」の運営委員会委員長である金澤先生は、19年度の苦い経験が自身の成長の糧になったと振り返る。

「生徒が問いを自分ごとになできないままグループ活動に入ったため、調べ学習で終わってしまったのです。探究の前提となる部分で失敗したことに悔しさを感じましたが、そんな私に、出井教頭や先輩方は引き続き探究の推進役を任せてくださいました。20年度は同じ過ちを繰り返さないよう、他校の探究の発表会にも積極的に参加して、個人探究とグループ活動の接続などを改善しました」

## アップデート

### 「授業」という小さな歯車を安心して回せるように

#### 若手教師のボトムアップで 授業改善の自主P.T.が始動

教科のグランドデザインの策定や教科・科目のルーブリックの検討を行う中で、定期考査に思考力を測る問題を一定数盛り込む教科が出てくるなど、同校の教師の意識改革は着実に進んでいる。今後は、科目ごとのルーブリックを完

成させた上で、どのような方法で観点別学習状況の評価を行うのかを検討していく。

「他校の先生から、『カリキュラム・マネジメントがなぜかうまく機能しない』といった声を聞くことがありますが、それはグランドデザインなどの大きな歯車を作っただけで、授業という小さな歯車が回っていないからだと思いま

す。一人ひとりの教師が小さな歯車を回し始めれば、失敗も経験するでしょう。しかし、教師には、

失敗を乗り越えた先の成功体験が必要です。先生方から様々な場面で『変えてみたい』といった、挑戦を望む声がどんどん出てくるように、皆が安心して挑戦できる環境をつくっていききたいと思います」(出井教頭)



教頭  
出井孝一  
いでい・こういち

教職歴30年。同校に赴任して4年目。



進路指導主事  
平田光子  
ひらた・みつこ

教職歴31年。同校に赴任して2年目。商業科。



進路指導部  
森廣祐介  
もりひろ・ゆうすけ

教職歴11年。同校に赴任して9年目。教員研修担当。数学科。



教務部  
荒木 海  
あらかき・はるか

教職歴7年。同校に赴任して8年目。教育課程委員会委員長。国語科。



渉外部  
金澤みなみ  
かなざわ・みなみ

教職歴5年。同校に赴任して6年目。「総合的な探究の時間」運営委員会委員長。地理歴史科。

※プロフィールは、2021年3月時点のものです。